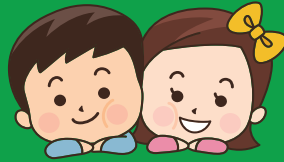




食を必要とする "1人"のために



特定非営利活動法人フードバンクTAMA

〒191-0062 日野市多摩平 5-3-2
プレジャーガーデン豊田式番館 101
TEL:080-6814-3657
Email: foodbank.tama@gmail.com

「フードパントリー（食の中継地点）」を始めて・・・

平成 30 年 10 月の社内の会議で「フードバンクTAMA(以下、フードバンク)と協力してフードパントリー事業を日野市社会福祉協議会(以下、日野社協)でできないか」と提案が挙がりました。

フードドライブやフードロスなど「フード」の付く造語を耳にするようになってはいましたが、正直なところ「フードパントリーって何?」と感じたのが第一印象です。

事業としては、生活に困っている方を食材の提供を通じて相談機関につなげる」というものでありました。社協としても大変関心のある取り組みでありましたが、「対象者や受渡方法、食の配布場所、個人情報の管理」などの課題が挙がり、職員間でイメージが共有できず見送る事となりました。

再び検討が進められたのは、平成 31 年 4 月に「食の中継地点」として社会福祉法人が協力して行ってはどうか」といった提案が挙がったからです。当時、社会福祉法人では「地域貢献活動」の検討が進められており、この提案に対し、「(社福)東京緑新会多摩療護園(程久保)」と「(社福)夢ふうせん(旭が丘)」の 2 法人の協力が得られることとなり、日野社協(日野事務所・高幡事務所)とフードバンク倉庫(大坂上)の 5 つの「食の中継地点」で令和元年 11 月に手探りの中、スタートすることとなりました。

準備期間が短かったこともあり、開始からしばらくは「利用者かほとんどいない」という状況が続き、「利用のしづらさ」や「内

容が分かりづらい」といった課題がありました。

そのため、ポスターやのぼりの作成を進めていた矢先に、新型コロナウイルス感染症(以下、コロナ)が拡大し、これに伴い社会福祉協議会ではコロナ禍により失業や減収で生活不安となった方への「生活資金の貸付」の相談業務が開始され、この相談とともに「フードパントリー」を案内したところ、その利用が爆発的に増えました。

コロナ禍により先行きに不安を感じている方も多いと思いますが、こうした方々に「フードパントリー」を案内できたことは、「一時の支援でありますがお役に立てているのでは」と、この事業の可能性を実感することができました。

また、フードバンクさんからご提供される食材は、レトルト食品からお米・パスタ、お菓子、ジュースなど種類も多く、利用者には大変喜ばれ、感謝されています。(時折、食材の注文もさせていただいています。)

今後の課題としては、「相談機能の強化・必要な情報の提供」にあると考えています。経済不安のほかにも、様々な課題を抱える方々が地域にはいらっしゃると思いますが、フードパントリーを利用させていただくことで、必要な相談機関につなげられるよう、フードバンクさんをはじめ社会福祉法人施設の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

山田 明生(社会福祉法人日野市社会福祉協議会)

こども食堂「ふくろうはうす」から

こども食堂「ふくろうはうす」は、2018 年 8 月に京王山田駅すぐ側にママ達でオープンしたこども食堂です。週に 1 回、昼食・おやつ・居場所・学習の提供を行っているほか、夏休み・冬休みには食糧支援も行っています。

ふくろうはうす開催日には、約 50 名の子ども達が来ていますが、みんな様々な問題を抱えています。家庭内の問題を解決してあげることは困難ですが、まずはお腹いっぱいご飯を食べさせること、子ども達が安心して過ごすことができるように活動をしています。

子ども達には、家庭だけではなく地域に頼れる大人が居ること、決してひとりではないということ、居場所があるということに気づいてもらえるよう努力をしています。

今年 4 月には「新型コロナウイルス感染症拡大防止対策」に伴い、食堂は一時的に閉鎖しており、「緊急食糧支援」・「パントリー」に切り替えて活動を継続しています。

フードバンク TAMA さんには、お菓子・お米など様々な食料品を提供していただいております、この 3 月～6 月までの期間で沢山の世帯に食料品をお届けすることができました。

4 月 8 日に緊急事態宣言が発出されたことにより、スーパーなどで食料品が品薄になり「緊急食糧支援」に必要な食料品を集めることが困難な状況の中、フードバンク TAMA さんが沢山の食料品を提供してくださり本当に助けられました。スタッフ一同心より感謝いたしております。

「緊急食糧支援」をお届けした世帯よりお礼の声もいただきました。

・「こんなに沢山の食料品を届けてくださりありがとうございます。」

・私はひとりではないと思うことができました。明日からも頑張れます。」

・「子ども達は宝箱が来た!と大変喜んでいました。久しぶりに子ども達のあんなに嬉しそうなお顔をみました。ありがとうございました。」など沢山のメールをいただきました。

まだまだ苦しい日々が続くことが予想されますが、引き続き地域の必要な世帯への「緊急食糧支援」・「パントリー」を行いながら、子ども達に寄り添う活動を継続していきます。

引き続き、「こども食堂ふくろうはうす」をよろしく願いいたします。

細田明菜(こども食堂ふくろうはうす代表)<八王子市>

食品企業様や個人の方から多くの食品が届けられました。ありがとうございました。

受贈 ▶ 主食 : 6336 キロ 飲料 : 3168 キロ 缶詰 : 822 キロ 野菜 : 3988 キロ 菓子等 : 3640 キロ 調味料 : 2865 キロ

2019.10 ~ 2020.3 の間、児童福祉施設等へ寄付した食品の種類と量

提供 ▶ 主食 : 5333 キロ 飲料 : 3080 キロ 缶詰 : 966 キロ 野菜 : 3622 キロ 菓子等 : 3422 キロ 調味料 : 3083 キロ

おうちDEカレーに子どもたちの笑顔

私のお店では子どもだれでも食堂として、地域の集いの場を提供してから、はや9年目となりました。

初めの頃は、ランチで余った炊飯器のお米を学校帰りの子ども達におにぎりをつくって手渡したり、毎晩お母さんがいない家で留守番をする姉妹には、ジップロックにシチューやカレーなどを入れて届けたりと、気になった子ども達に声を掛けてきました。

今ではフードバンク TAMA さんの活動のおかげで、たくさんのお菓子や食材を届け、週末にはカレーを作って地域の見守りをするのが、私のルーティンになっています。当時、小学生だった子ども達も高校生や大学生となり、突然敬語で話し掛けてくるようになると、私の方が恐縮してしまうことがあります。しかしそのようなことも、子ども達が真つすと成長していくととても嬉しく思います。

子ども達も入れ替わり、また新しい子ども達や家庭をフォローしていますが、やはりコロナによる不況で収入が激減し、不安な毎日にまた一人と相談件数が増えてきました。このように目の前の家族だけが特別ではなく、世間でも浮上していない貧困があると思います。

先日、私のお店の目の前のマンションから親子の飛び降り自殺という悲しい事件がありました。翌日コロナの自粛中ではありましたが、いつも子ども食堂に来てくださっている家庭に何かできることはないかと考えました。

私個人の一存で、笑顔でひと時でも辛い時間を忘れられるようにと、カレーの材料をセットにし「おうち DE カレー」と題して、20 世帯にお届けしました。すると次々に笑顔の写真が私の手元に送られてきました。感想には、「子ども達に作ってもら環境ができたので、怒らずに楽しく見守ることができました。」「コロナで買い物にも行けず、材料を頂いたことで小さい子どもに初めて包丁を使って、手伝わすことができて良い経験になりました。」など、この活動をきっかけにフードバンク TAMA の奥野さんに相談し、カレーのルーやお菓子などを一緒にお届けすることができました。

材料をそろえて袋詰めにし、週末三日間かけてお渡ししています。私を動かしてくれたのもフードバンク TAMA さんからのたくさんのお菓子などがあるおかげです。

子ども達や親御さんもコロナで自粛中は笑顔もぎこちなく、不安ばかりだったと思います。家庭の中に私のような地域のおばさんが入り込むことで、閉ざされた家庭に外からの温かな気持ちが寄り添うことで、ほんの 10 ~ 20 分の立ち話が子ども達を守ることに繋がればと思い、これからもこの活動を続けていきたいと思っています。

このような活動を続けられるのもフードバンク TAMA さんのボランティアの皆様のおかげです。心よりお礼を申し上げます。ありがとうございます。

玉内智美 (ピンクララ TAMA 子ども食堂) <多摩市>

食材のご提供ありがとうございます

フードバンク TAMA を応援サポート下さっている皆さま、運営者の皆さま。食材の提供とあたたかい支援をありがとうございます。私たちあおぞらみんな食堂みんなカフェは、昭島市で子ども食堂と地域の居場所カフェ、フードパントリーをしています。

コロナ渦、子ども食堂や地域の居場所カフェの活動は中止になりました。学校も休校になり、仕事も不安定になった影響から、「お母さんがどんどん痩せちゃっているご家庭がある」「お子さんが満足に食べられていない様子のご家庭がある」などの声が寄せられました。

フードパントリーの活動として、購入した食材とご寄附で頂いた食材をおすそ分けセットとして配布しました。お配りすると、ありがとう、と一緒に「最近子どもにあったかいごはんをたべさせる余裕がない」「休校中も共働きで家にいてあげられないから、いつもカップ麺」などの声が届きました。

温かいごはんを届けたいと、昭島市からの助成を受け、つながっているご家庭を中心に4月に160食のお弁当配布事業を行いました。その時に、「久々におなかいっぱい食べたら、なんか眠くなっちゃた！」と、子どもから感想をもらいました。おなかいっぱいの温かい食事で、一時でもホットできる、明日の活力になる、そんな暮らしが当たり前にできない家庭が増えていると感じます。

私たちの活動は取るに足らない小さなものですが、子どもたちが将来の夢や希望を思い描けるだけの、生活の土台の一助になればいいなと思っています。昭島市でもボランティアや自治体などの支援者が組織的に繋がり広く活動できる様に、連絡会の設立を準備しています。

食の必要を少しでも満たしていけるように、あたたかい気持ちや物資が廻るように、これからもご支援ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

軸丸里奈 (あおぞらみんな食堂みんなカフェ) <昭島市>